

問1 東北地方のある県では、農業産出額の構成において「果実」が約28%という高い割合を占めています。このように、稲作のみに頼らず果樹栽培が地域の重要産業として発展した背景として、最も適切なものはどれですか。（2024年 石川公立入試 類似）

1. 冷涼な気候に適した作物を選択し、米の生産に偏りすぎない多角的な農業経営を推進してきたため。
2. 季節風の影響を抑えるために、平野部をすべてビニールハウスで覆い野菜中心の栽培に転換したため。
3. 干拓によって得られた広大な土地をすべて果樹園とし、世界的な輸出拠点として整備されたため。
4. 人口が密集する大都市圏に隣接しているため、鮮度が重要な果物の近郊農業に特化したため。

問2 岩手県の南部鉄器のように、100年以上の歴史があり、熟練した技術によって主に手作業で作られ、経済産業大臣によって指定される工芸品を何と呼びますか。その制度の名称として適切なものを選びなさい。（2022年 徳島公立入試 類似）

1. 伝統的工芸品
2. 重要無形文化財
3. 世界文化遺産
4. 地域団体商標

問3 日本の東北地方は、おおよそ北緯37度から42度の間に位置しています。このうち、秋田県や岩手県の北部を通り、世界ではニューヨークやマドリードに近い緯度としても知られる緯線はどれですか。（2020年 福島県公立入試 類似）

1. 北緯35度
2. 北緯38度
3. 北緯40度
4. 北緯45度

問4 東北地方の太平洋側に位置し、複雑な海岸線を持つリアス海岸がある岩手県の地理的・産業的特徴について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2019年 広島公立入試 類似）

1. 波が穏やかな入り江の環境を利用して、かきやわかめなどの養殖が盛んである
2. 対馬海流の影響を強く受けるため、冬でも雪が降らず温暖な気候である
3. 最上川の下流に広がる庄内平野を中心に、全国有数の稲作地帯となっている
4. 奥羽山脈の西側に位置し、季節風の影響で冬は世界的な豪雪地帯となる

問5 東北地方では、米の農業生産額が全国シェアの約25%を超えるほど稲作が発展していますが、このように「日本の食料基地」と呼ばれるまでに至った背景や工夫として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 福井公立入試 類似）

1. 寒冷な気候による冷害を克服するために、耐寒性の高い品種への改良や、大規模な土地改良事業が進められたから。
2. 冬の積雪を農業用水として利用するために、山間部の傾斜地を切り拓いて数多くの棚田を造り、生産量を増やしたから。
3. 化学肥料に頼らない伝統的な農法を維持し、小規模な家族経営の農家が多品目の米を少しずつ生産する体制を守ってきたから。
4. 政府の減反政策に対応するため、米の生産面積を縮小し、付加価値の高い果樹栽培へ全面的に転換を図ったから。

問6 東北地方の地方中枢都市である仙台市の地理的な特徴や役割について述べた文として、正しいものはどれですか。（2016年 岩手県公立入試 類似）

1. 山形県に位置し、奥羽山脈の西側で果樹栽培の中心地としての役割を果たしている。
2. 宮城県に位置し、東北地方全域を管轄する国の出先機関や企業の支店が多く集まっている。
3. 福島県に位置し、東北新幹線の沿線として関東地方への通勤圏としての役割が強い。
4. 青森県に位置し、津軽平野を中心としたリンゴ栽培の集散地として機能している。

問7 東北地方の6県を比較した統計において、ある県の果実の農業産出額は約833億円に達し、他の5県の132~147億円という数値に比べて突出して高い規模となっています。この県名と、その産出額の多くを占める果実の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2018年 富山県公立入試 類似）

1. 青森県（りんご）
2. 山形県（さくらんぼ）
3. 福島県（もも）
4. 長野県（りんご）

問8 東北地方の各県における農業統計に基づき、土地利用や生産状況について説明した次の文のうち、正しいものはどれですか。なお、宮城県の総面積に対する耕地面積の割合は約17.2%、青森県は約15.5%です。（2024年 宮城県公立入試 類似）

1. 宮城県は、仙台平野などの平地を有効に活用しており、総面積に対する耕地面積の割合が青森県を上回っている。
2. 岩手県は、広大な土地を活かした畜産業が極めて盛んであり、県全体の農業産出額の7割以上を畜産が占めている。
3. 秋田県と山形県は東北を代表する米どころであり、この2県だけで東北地方全体の米の産出額の半分以上を占めている。
4. 青森県は東北地方で最も総面積が大きい県のため、山地が多いにもかかわらず耕地面積の割合も東北6県で最大である。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 冷涼な気候に適した作物を選択し、米の生産に偏りすぎない多角的な農業経営を推進してきたため。	東北地方は古くから冷害による凶作に悩まされてきた歴史があり、稲作単作からの脱却や、地域の気候に適した高付加価値な作物の導入が進められてきました。特に青森県などでは、冷涼な気候を逆手に取ったリンゴ栽培に注力することで、農業産出額に占める果実の割合が顕著に高くなり、地域の安定した重要産業として確立されました。
問2	<b>答え 1</b> 伝統的工芸品	伝統的工芸品は「伝統的工芸品産業の振興に関する法律（伝産法）」に基づき、経済産業大臣が指定するものです。南部鉄器もこの指定を受けており、現在は伝統を守るだけでなく、カラフルな急須を海外へ輸出するなど、現代の生活や海外需要に合わせた製品づくりも行われています。
問3	<b>答え 3</b> 北緯40度	東北地方の緯度は北緯37度から42度の範囲にあります。北緯40度線は秋田県の大潟村や岩手県北部を通過しており、同緯度の海外都市との比較でもよく出題される指標です。ちなみに北緯38度線は、より南側の山形県や宮城県南部を通過しています。
問4	<b>答え 1</b> 波が穏やかな入り江の環境を利用して、かきやわかめなどの養殖が盛んである	岩手県は東北地方の太平洋側にあり、特に南部沿岸のリアス海岸はその形状から天然の良港となりやすく、波が静かな入り江が多いため、古くから水産養殖業の拠点として発展してきました。他の選択肢は山形県（稲作）や秋田県（日本海側の気候）などの特徴です。
問5	<b>答え 1</b> 寒冷な気候による冷害を克服するために、耐寒性の高い品種への改良や、大規模な土地改良事業が進められたから。	東北地方は本来、冷害（やませ等による低温被害）を受けやすい地域でしたが、寒さに強い品種の研究開発や、機械化に適した大規模な水田の整備（区画整理やかんがい施設の充実）が進んだことで、安定した高い生産力を確保できるようになりました。現在では「コシヒカリ」や「ひとめぼれ」など、良質な銘柄米の産地としても知られています。
問6	<b>答え 2</b> 宮城県に位置し、東北地方全域を管轄する国の出先機関や企業の支店が多く集まっている。	仙台市は、宮城県の太平洋側に位置する東北地方最大の都市です。政治・経済において東北地方全体をまとめる「地方中枢都市」としての機能を備えており、中央官庁の出先機関（東北局など）や民間企業の支店が集中しているのが大きな特徴です。このように特定の地域の中核となる都市を地方中枢都市と呼びます。
問7	<b>答え 1</b> 青森県（りんご）	東北地方において、果実の産出額が他の県を圧倒して高いのは青森県です。青森県はりんごの生産量が日本一であり、全国の約半数のシェアを誇ります。選択肢にある山形県（さくらんぼ）や福島県（もも）も全国的な産地ですが、産出総額において青森県のみりんごは非常に大きな規模を持っています。なお、長野県もりんごの産地として有名ですが、東北地方ではなく中部地方に属するため、統計の対象から外れます。
問8	<b>答え 1</b> 宮城県は、仙台平野などの平地を有効に活用しており、総面積に対する耕地面積の割合が青森県を上回っている。	土地利用の状況を示す指標として「総面積に対する耕地面積の割合」があります。宮城県は仙台平野という米づくりに適した平野部を持つため、この割合が約17.2%となっており、面積の大きい青森県（約15.5%）よりも高い比率で土地が耕作に利用されています。岩手県の畜産や秋田・山形の米の生産割合については、統計上そこまで極端な集中（7割超や2県で過半数など）は見られません。